



ノロウイルス以外の主なウイルス性食中毒について

すでにウイルスの生存にとっては好適な低温、乾燥状態が続く日々となりました。今回はノロウイルス以外のウイルスが原因となる食中毒についてお話しします。厚生労働省の食中毒統計では食中毒の病因物質（微生物によるもの）として細菌類は16種類、ウイルスはノロウイルスとその他のウイルスの2種類を挙げています。

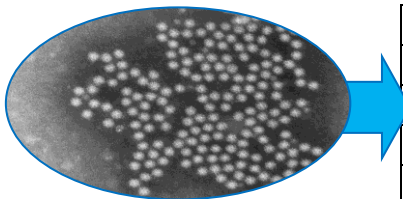
2018年はノロウイルスによるものが256件、患者数8,475人、その他のウイルスによるものが9件、患者数401人でした。厚生労働省の統計からは、その他のウイルスが原因となった食中毒は、これ以上詳細に知ることが出来ない状態です。もっぱら各地方自治体の食中毒統計や新聞、テレビ等の報道から知ることになります。

ノロウイルスの食中毒事件数、患者数から比べれば僅かですが、お話ししましょう。

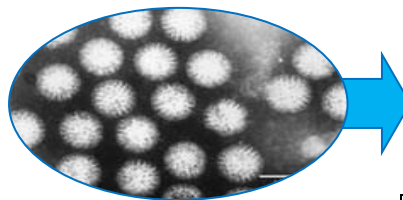
ノロウイルス以外の食中毒を起こすウイルスについて

これまでにサポウイルスやロタウイルス、A型肝炎ウイルス等が知られています。

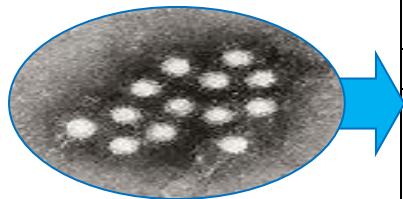
サポウイルスやロタウイルスはノロウイルスと同様、主に感染性胃腸炎を起こすウイルスですが給食や弁当等、調理された食品を介して食中毒となります。



サポウイルス:	ノロウイルスと同様、季節を問わず胃腸炎を起こす。
感 染 経 路	カキ等の二枚貝、生食やこのウイルスを保有する調理従事者の関与。
潜 伏 期	12~48時間、嘔吐、下痢、発熱が主。
発症している期間	一般的に1~2日、長い場合は1週間程度続く。
症 状	ノロウイルスと区別がつかない。



ロタウイルス:	普通は乳幼児に多く見られます。
感 染 経 路	ウイルスに汚染された水や食品、ノロウイルスやサポウイルスと同様、特に二枚貝の生食やこのウイルスを保有する調理従事者の関与。
潜 伏 期	1~2日間を経て嘔吐、水様の下痢、腹痛、37℃程度の微熱が見られる。
発症している期間	5~6日に及ぶ場合あり。



A型肝炎ウイルス:	国内で発生した食中毒の事例はほとんど感染源が特定されていませんが、井戸水や二枚貝が感染源として推定されている事例があります。
感 染 源	井戸水や二枚貝が感染源として推定されている事例あり。
潜 伏 期	2~7週間を経て倦怠感、吐き気、嘔吐、黄疸、肝の腫大等の症状が出るが、慢性化することは無く、急性肝炎として経過し、一般的に予後は良好。また、幼児期に感染してもほとんどが軽症で済む。しかし、免疫を持たない中高年齢層で発症すると重症化する傾向あり。大部分が2か月以内に肝臓機能が回復し、一度感染すると免疫が出来、その後、二度と感染しない。

治療方法

サポウイルス、ロタウイルス:どちらもノロウイルスの食中毒の場合と同様に特別な治療法はありません。

嘔吐の症状が収まり次第、水分補給に努め、安静にも務め、回復期は消化しやすい食事を摂るようにしましょう。

A型肝炎ウイルス:原則として急性期には入院、安静加療が必要です。特別な治療法はなく対症療法が中心です。

予防のポイント

基本的にサポウイルスやロタウイルス、A型肝炎ウイルスともノロウイルスの予防対策と同じです。

正しい手洗いの実行:特にトイレ後、調理や食事の前には、その都度、ゆっくり丁寧に石鹸液と流水で十分に手を洗いましょう。

カキなどの二枚貝を調理する場合は、中心部まで85~90℃で90秒以上の加熱が必要です。嘔吐物、糞便は次亜塩素酸ナトリウムを適正な濃度で適切に処理しましょう。

【A型肝炎ウイルスの場合、常在地域となっている国や地域があります。】

そのような地域では、生水を飲まない。また、生水で作られた氷やアイスキャンデー等にも注意して、よく加熱された食品を食べるようにしましょう。



登録衛生検査所 株式会社 中央微生物検査所 環境サービス事業部

http://www.chubi.co.jp/ E-mail shoku@chubi.co.jp

本 社 〒536-0008 大阪市城東区関目5丁目22番23号 TEL.(06)6939-1044 FAX.06-6939-2350

東京営業所 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番10号コスモタワービル10階 TEL.(03)5472-7551 FAX.03-5472-7552